

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT28	交通文化論	交通を「文化」という視点で考える	濱 雄亮	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	文化論・文化史・比較文化		
ディプロマポリシーとの対応	2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前受講するとよい科目	交通概論、鉄道基礎、鉄道史、交通政策論				
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法	教員の短大メールアドレス				
講義の目的	鉄道が日本に導入されてから150年以上が経過しました。その他にも様々な交通機関が発展してきました。交通は単に移動・輸送サービスを提供する作用だけを持っているわけではありません。交通は、人びとのライフスタイル・「文化」や他領域と、お互いに影響を与えています。その諸相について、文化人類学・民俗学・社会学を中心とした人文科学の知見に基づいて学ぶことを目的とします。				
到達目標	鉄道を中心とした交通と「文化」や他領域がお互いに影響を与えているさまについて、具体例を挙げて説明ができること。前近代・近代・現代の連続性について、具体例を挙げて説明ができること。				
講義内容	交通（鉄道の比重が大きい）と「文化」の影響関係について、具体例に基づいて講義を行います。極力、具体例に基づいて講義を行います。予備知識はとくに必要ありません。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	「文化論」とは？	「文化論」という視点について		
	第2講	交通文化研究のあり方	交通文化研究の現状		
	第3講	交通の受容と地域(1)	鉄道忌避伝説の発生と背景		
	第4講	交通の受容と地域(2)	都心と多摩地区の鉄道		
	第5講	交通の受容と地域(3)	植民地と鉄道		
	第6講	交通・鉄道と人(1)	鉄道ファン・鉄道趣味の文化史		
	第7講	交通・鉄道と人(2)	交通と神々・交通と擬人化の諸相と背景		
	第8講	交通・鉄道と人(3)	鉄道と自然災害・獣害の歴史		
	第9講	鉄道と文芸(1)	教科書・文学・共通テストにおける描かれ方		
	第10講	鉄道と文芸(2)	歌・落語・アニメ・マンガにおける描かれ方		
	第11講	鉄道と文芸(3)	落語・文学における描かれ方・ドクターイエローの神格化		
	第12講	交通・鉄道と災害(1)	鉄道の正確性・鉄道事故の諸相と背景		
	第13講	交通・鉄道と災害(2)	鉄道と災害：東日本大震災・人災など		
	第14講	交通の現代的展開と課題(1)	寝台特急の歴史・地方鉄道の取り組み		
第15講	交通の現代的展開と課題(2)	少子高齢化社会の課題と交通・総括			
指導方法	講義形式です。動画・写真・映画も用います。「*と聞いて思いつくこと」などをその場で聞きその答えを即興で講義に生かすこともあります。毎回、感想・意見記入などの授業内課題を課します。				
事前学習	授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
成績評価方法	平常点（授業内課題）：60%、本試験（筆記試験）：40%。				
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法	授業内課題は原則として次の授業時に解説・補足説明を行います。				
テキスト	用いません。紙やpdfの資料を教室やclassroom上で配付します。				
参考文献	草柳大蔵〔ほか監修〕1991『20世紀フォトドキュメント 第7巻 交通』ぎょうせい、宇田正2007『鉄道日本文化史考』思文閣出版など。				
実務家教員による授業	教員	経歴			
特記事項	新しく入手した資料や社会情勢によって順番や内容を一部変更する場合があります。				